

校長室だより第 22 号（令和 7 年 9 月 3 日）

学校が再開して 3 日が過ぎました。学校だよりも書いたように子どもたちは暑い中でも元気に登校しています。でも、少し疲れが出たのでしょう。朝の挨拶のトーンが下がってきています。

私が「おはようございます。」と少し大きな声で言っても、帰ってくる声は小さな声で「おはようございます。」だったり、うなずくだけだったりしています。少々寂しい気もしますが、もう少し涼しくなるまで待ちましょう。

この土日はゆっくり休んでくれると嬉しいです。

私は朝のあいさつをするために、毎日校門に立っています。時間にして 30 分程度なのですが、特に東門は遮るものがないため、ずっと太陽の光を浴びているのが非常につらいのです。

そこで 60 歳にして初めて「日傘」を購入しました。昭和生まれの私にとって、「日傘」は避暑地でご婦人がさすものであり、男が持つものではないと思い込んでいました。また、日焼けは元気な子の証であり、夏休み明けに友達と肌の黒さを競い合った記憶もあります。時代錯誤も甚だしく、偏見に満ちた文章になってしまいました。申し訳ありません。

その「日傘」をさして街を歩いてみると、とても快適でした。「日傘」は太陽の光を遮り、そこに日影を作ってくれるのです。体感温度が日傘ありとなしでは大きな違いがありました。まるでオアシス。帽子をかぶってもこうはいきません。「日傘」のすごさに感動してしまいました。

妙な意地を張らずにもっと早く「日傘」を購入すればよかったと後悔？しています。「日傘」のおかげで校門に立つのも楽になりました。これを機に、先入観や偏見を取り除き、いろいろなことに挑戦したり、購入したりしようと思ひ

ます。それはそうとして、早く涼しくなってほしいものです。